海外レポート	タイ　バンコク

「タイで愛されるコンビニ」

辻本　浩一郎

＜驚きのコンビニ店舗数＞

タイを初めて訪れる人にとって、驚くポイントの１つが、コンビニの多さだと思います。駅や商業施設、街中、マンションの中などいたるところに店舗があります。

ローカル系では 108Shop、Mini Big C や CJ Express があり、日系はセブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン等が進出しています。

路面店や複合型マンションの店舗の多くが 24 時間営業で、日常生活に関わるあらゆる商品を取り扱い、ATM も設置されており、タイでの生活を支える強い味方です。

中でも突出しているのがセブン-イレブンで、タイのセブン-イレブンは日本の 21,402 店舗（2023 年 2 月末現在）に次いで 13,134 店舗と店舗数世界第２位となっています。ビジネスや観光の中心となる首都バンコクにおいては、5,000 を越える店舗が出店しています。東京都内の店舗数が 2,881 店舗であることを考えると、その店舗網の拡大ぶりがイメージできるかと思います。

1989 年にセブン-イレブンが進出するまで、24 時間営業のお店はなく、その利便性と店舗拡大スピードによって、タイでは圧倒的な人気を誇るコンビニとして地位を確立しました。

（参考）タイで展開する日系コンビニ

日系コンビニ	現地運営会社	店舗数
セブン-イレブン	Thai Seven-Eleven Co., Ltd.	13,134
ファミリーマート	FamilyMart (Thailand) Co., Ltd.	805
LAWSON 108	Saha Lawson Co., Ltd.	94

（2023 年 3 月調べ）

＜充実のメニュー＞

タイのセブン-イレブンは日本と同様に食料品、日用品、生活雑貨、青果品などを取り扱っています。1 つ異なる点があるとすれば、カフェメニューの充実さにあります。写真のカフェメニューからお分かりいただけると思います。

メニュー数は店舗により異なりますが、近所の店舗ではコーヒーが 8 種類、スムージーが 5 種類など全 24 種類。さらに軽食メニューのラインナップも充実しており、喫茶店など専門店を凌ぐメニュー数があります。

今回購入したのはコンデンスミルクをたっぷり使ったタイ式アイスミルクティーのラージサイズで 45 バーツ（約 180 円）です。たっぷりの氷と大きな容器に注がれたタイ式ミルクティーは、甘く、バニラやオレンジなど風味豊かです。タイではこのサイズの飲み物を口にしている人をいたるところで目にします。

常夏の国タイで暮らす人々にとって、冷たく甘い飲み物は生活に欠かせないものです。セブン-イレブン等のコンビニ各社はタイ国内において出店数を増やし、その利便性とタイ国民の生活に合わせた商品展開をすることで日々の暮らしに欠かせない存在となっています。

【セブン-イレブンのカフェメニュー】

【セブン-イレブンのタイ式アイスミルクティー】